

## 時間の使い方



### 佐野健一

日本工業大学創造システム工学科  
[345-8501]埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1  
准教授, 博士 (理学).  
専門はナノバイオ工学.  
kisano@nit.ac.jp  
www.nit.ac.jp/gakka/subject/kyoin7/se\_sano.html

昨年末、私が所属している学会からの配信メールに、次のようなことが書いてありました。その学会では、会員の女性比率に相当する割合で、女性理事が選ばれたことから、男女共同参画委員会は、その一定の役割を果たしたとみなし、発展的に解消し、若手キャリアパス委員会に改変するといったものです。女性理事の数が増え、目標に達したということは、確かに学会としても、社会としても喜ばしいことでしょう。でも本当の意味で、アカデミックの現場に、共同参画が実現できているか、私は甚だ疑わしいと思っています。

私が、この欄の執筆を頼まれたのは、夫婦揃って研究者として働いているからだと思っています。私たち夫婦も結婚して早10年になります。我が家の暗黙のルールとして、家から勤務先に近いほうが、炊事など家事をするということになっています。ここ3年程は、妻の勤務先が近かったことから、妻が家事の多くをしてくれていました。私が、ようやく今の大学のポジションに就いたことから、つい先日、私の勤務先近くに引っ越しましたので、家事が私の日課の一つになりました。

朝、妻を送り出し、掃除や洗濯、ゴミの日はゴミを出し、夜は、帰りにスーパーで買い物をして、夕食の準備です。私が家に着くのは、だいたい9時過ぎで、そこから食事の準備をしますので、用意ができるのは10時近くになります。私が、好きなこともあります。今年の冬は本当に寒いことから、引っ越してからずっと手間がかからず、不足しがちな野菜をたくさん取れる鍋料理をしています。きっと妻は、毎日代わり映えもしない鍋に飽きていると思いますが、文句も言わずに食べてくれています。幸い、我が家には、子供がいまないので、子供の世話や送り迎えの必要がないことから、家事における時間的拘束がほとんどありません。また食事でも学会前など忙しいときは、外食が続くこともよくありますが、子供がいないと遅い時間の食事(お酒?)も気にしなくて大丈夫。これらのおかげで、夫婦円満に仕事を続けていくことができていると実感

しています。

男女共同参画基本法には、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を作ることになるとあります。男女が対等であるのは当然ですが、産業界や政治においても、女性就労者を増やすことで、人口減少にともなう労働者人口の減少に歯止めをかけたい思惑も窺てとれます。一方で、日本の今の就労スタイルでは、(きっとどこかにデータがあると思いますが)女性就労者の増加と出生率の低下に相関があるはずで、その結果、さらなる人口減少を招くという悪循環に陥ろうとしていると感じてしまいます。少子化問題の影響を大きく受ける教育機関に務めていて、果たして自分のライフスタイルは、これでいいのかと自問することもあります。

研究者によくある仕事のスタイル~毎日ほぼ12時間(以上?)、職場で仕事をし、家にも持ち帰る~を夫婦で実践していると、現実問題として、どんなに優秀な人でも子供を育てることは、大きな負担とストレスが生じることと思います。競争の激しい研究分野では、一日一日が勝負であることもよく理解できます。でも、中身のともなった、持続可能な男女共同参画社会を作っていくには、今一度、私たち自身の時間の使い方を考え直していく必要があるのではないのでしょうか。

多くの先生方と話をしていると、「最近の学生は、時間の使い方が下手だ」と耳にします。私も大学に着任して、同じように感じており、しょっちゅう学生には、「時間だけは、みんな平等に過ぎていくから、時間の使い方をよく考えなさい」とお説教をさせていただきます。しかし今、この原稿を書いていて、案外、学生たちは我々教員や大人たちの時間の使い方をよく見ていて、「これでいいんだ」と実践しているに過ぎないのかな?と、ふと思ってしまいました。